

報告事項ク

平成28年度第4回鳥取県立博物館協議会の概要について

平成28年度第4回鳥取県立博物館協議会の概要について、別紙のとおり報告します。

平成29年3月18日

鳥取県教育委員会教育長 山本 仁志

平成28年度第4回鳥取県立博物館協議会の概要について

平成29年3月18日
博 物 館

博物館改修整備に係る基本構想案について審議するため、第4回鳥取県立博物館協議会を開催しましたので、その概要について下記のとおり報告します。

記

- 1 日 時 平成29年3月1日（水）午後1時30分から午後3時30分まで
- 2 場 所 鳥取県立博物館 会議室
- 3 議 題 鳥取県立博物館改修基本構想について

会議での主な意見

《収集保管》

- ・ 収蔵庫の多層化で収蔵力アップ、また見せる収蔵を行うとあるが、そのことと現在の空調能力との整合性は考えているか。
→ 3階の美術品に使う収蔵庫には空調が整備されており、ここには空調管理が必要な刀剣等を保管する。見せる収蔵庫にはそこまでの管理は不要なものを保管する。なお、空調能力については老朽化改修の一環として、設備更新・能力強化も行う。
- ・ 見せる収蔵とはどのようなものか？また、二層化等による詰め込みで収蔵能力を増やすこととの整合性はどうか。
→ 館蔵資料は県民の財産なので、できる限り県民に見て貰えるようにすべきとの考えで見せる収蔵を考えた。これは、来館者は普段は中に入れないが、外のガラス窓から収蔵品が見えるというものなので、人の頻繁な出入り等により保管環境を損なうことはない。また、全ての収蔵庫をそのようにするものでもない。見せる収蔵庫は詰め込むと見難くなるから限度があるが、他は二層化しても大丈夫と思う。
- ・ 「見せる収蔵」では収蔵庫と展示室の違いがなくなる。外からガラス窓越しに見ても感動しない。ネットで収蔵資料のデータを公開することを優先すべき。
→ 閉鎖系の収蔵庫と展示室の中間的存在と言えるが、基本は収蔵庫との位置づけ。収蔵庫の中にある資料を外から見てもらうもの。
データベースの整備については事業計画にも記載しているし、今も力を入れている。
一方で、バックヤードツアー等で実際の資料保存の現場が見たいとのニーズもあり、これに応えるのは別の話。
- ・ 収蔵庫の中をガラス越しにでも見れるのには興味がある。バックヤードツアーでもすごいと感じたので、是非やってほしい。ネットとは別に現地で見ること重要で、子ども達に感動を与えるはず。

《展示》

- ・融合展示とはどのようなものか。それを入れることで他の展示スペースが圧迫されはしないか。
→融合展示の内容は前回説明したとおりだが、それ程大型のものは考えてない。その追加は自然展示室と歴史民俗展示室にまたがって行うし、自然の展示室の老朽化した展示設備を処分すればスペースも空くので、他が狭くなることはないと思う。
- ・東部地区では県博が美術部門を賄っていたが、米子市や倉吉市、日南町は自前で美術館を持っている。地元市町村が美術機能を補うことも考えるべき。
→県博の美術部門が40年以上もあった重みを考慮すると、美術部門が中部地区に出ていく場合、急に鳥取市でと言っても難しいだろう。当面は県である程度対応すべきだと思う。

《教育普及》

- ・講堂を生物収蔵庫にするとあるが、そうなると講演会等は多目的スペースで行うのか。講堂の定員250名に対して、多目的スペースの100人以上では不足するのではないか。
→多目的スペースの面積は260㎡あり、200人は入れると思う。現在の講堂は206㎡で、新たな多目的スペースは却って広がる。「100人以上」というのは、標準的な利用規模を十分クリアできることを表したものだ。
- ・多目的スペースで半日もパイプ椅子に座って講演等を聞くのは辛いので、講堂は残してほしい。
→現在の講堂利用の頻度や規模から考えると難しい面はあるが、考えてみる。

《その他》

- ・新しい客層を招くためには、ベビールームなど子育て世代に優しい施設が必要。子どもの遊びの広場等もほしい。
- ・段差をなくす等、バリアフリー対応にも留意すべき。
- ・整備費はどれくらいかかりそうか。
→今後、老朽改修と耐震改修を行う。以前に現状課題委員会で報告したが、老朽改修で10億、耐震化で14億。それに加えて必要になる改修経費は、今の案ではそれ程かからないと思う。後は展示改修にいくらかかるか。
- ・駐車場対策も検討すべき。
→敷地の現状変更が規制されており、抜本的な対応は難しいが、検討はしておきたい。

今後の対応

- ・今回の意見等を踏まえて、今回提示した事業計画案等を見直し、次回協議会（3月末～4月上旬頃）で議論していただく。
- ・更に次回は、運営費や利用見込みの修正案の他、できれば改修経費の試算も提示し、運営体制（PFI等）についても検討していただきたい。

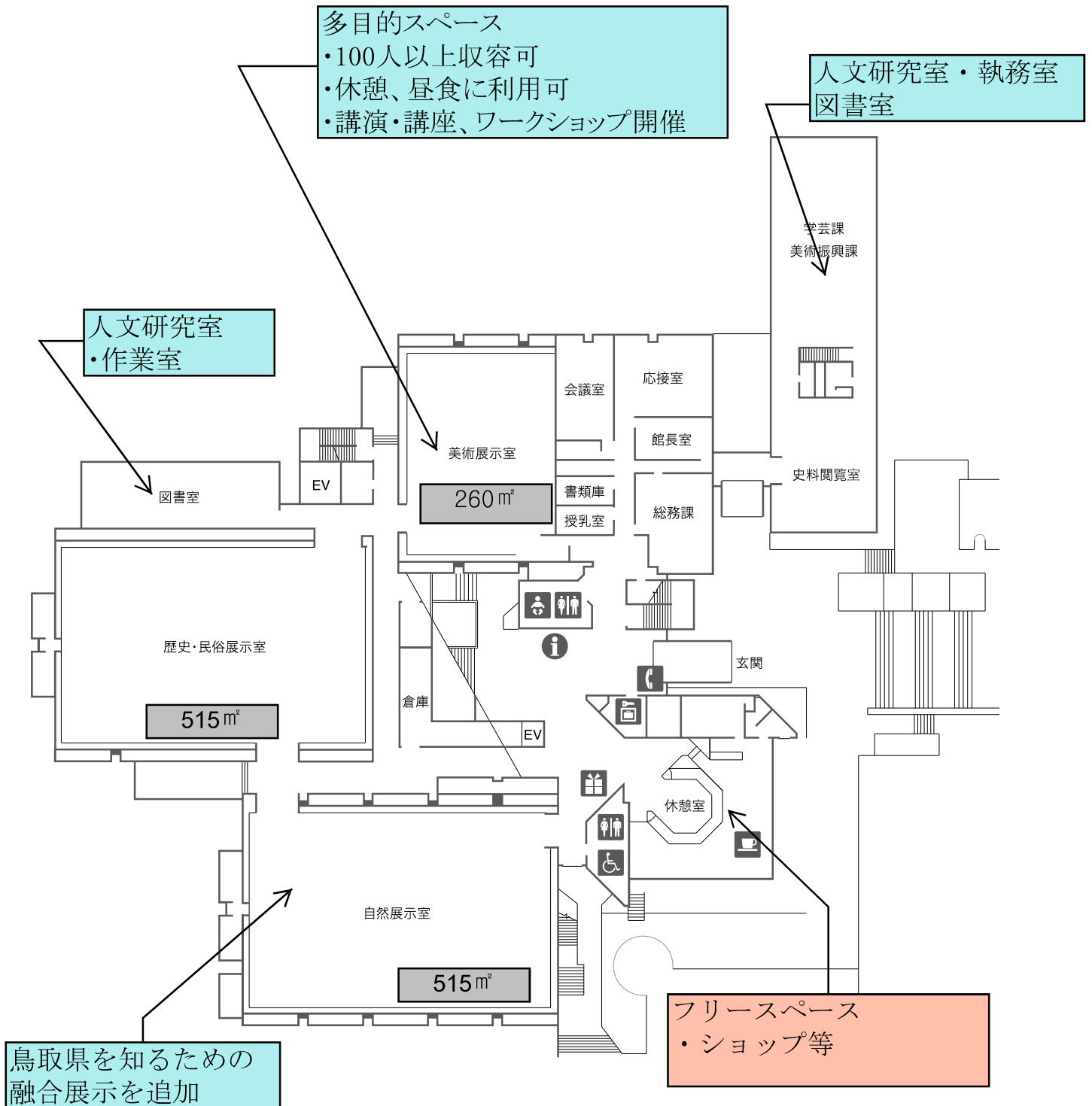
表1 必要な機能と施設・設備のモデル(想定)

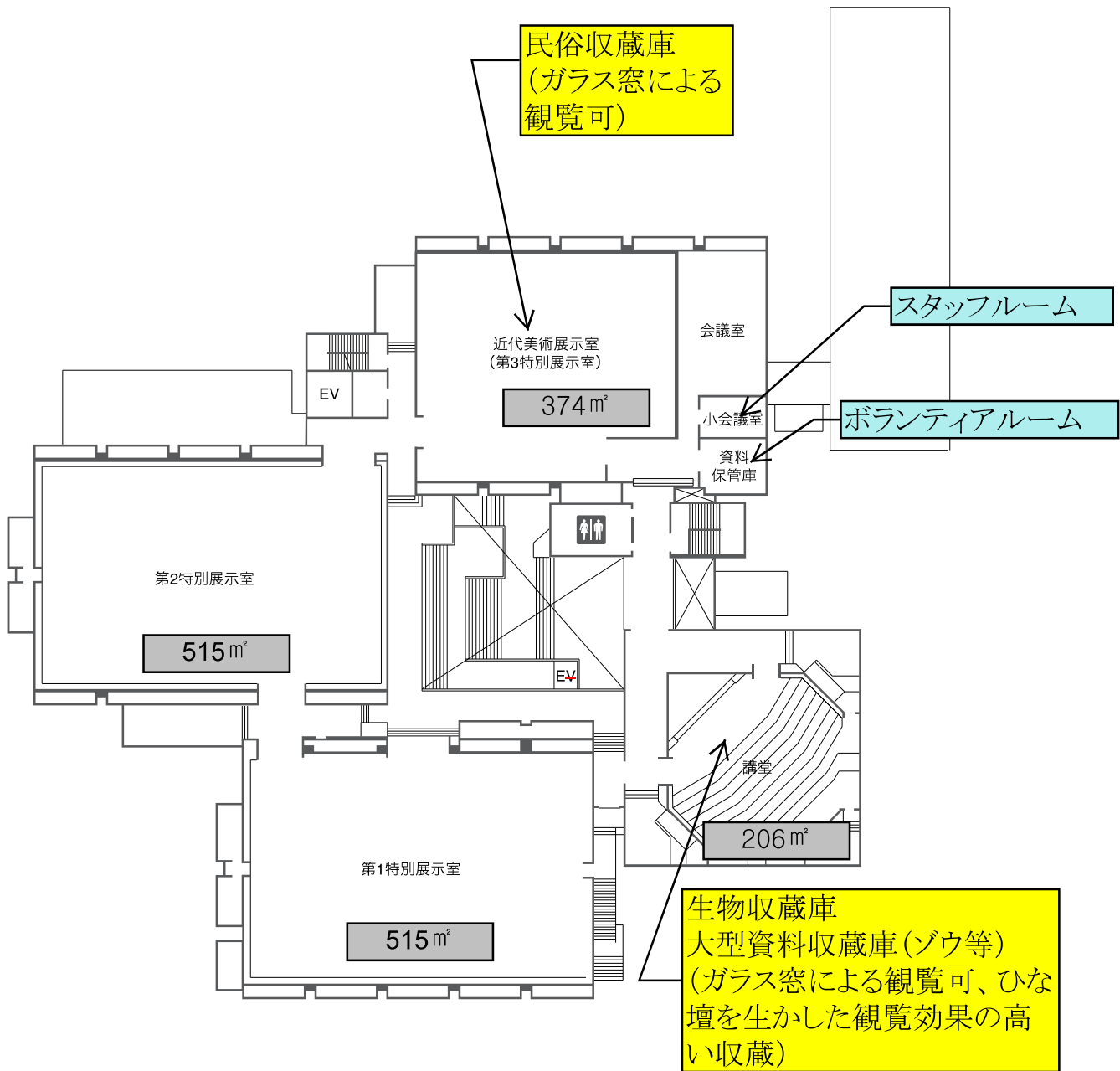
資料1

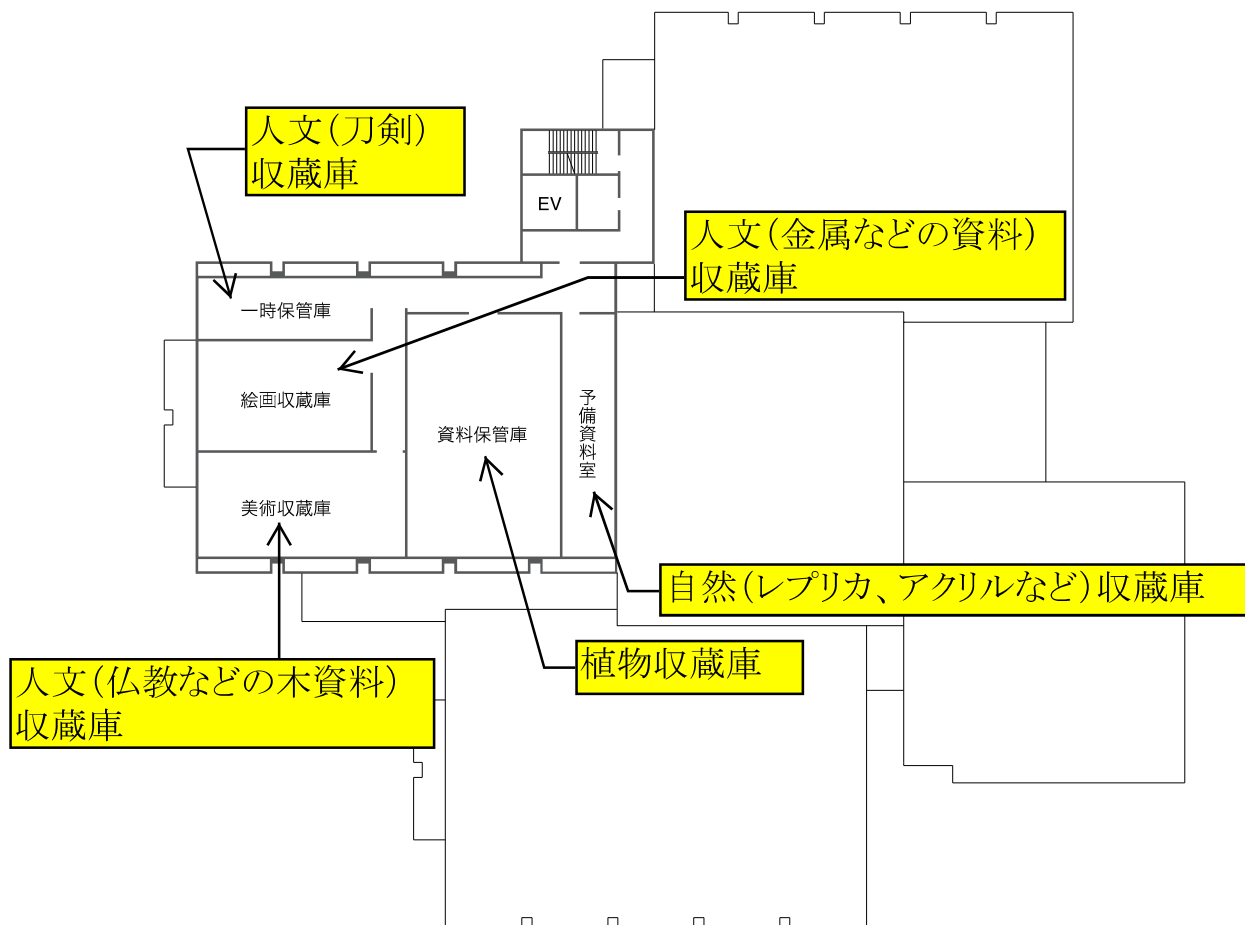
必要な機能		事業計画	主な施設・設備(必要面積)		【現状】	【再配置案】(必要面積との相差への対応等)
1 収集保管	①	鳥取県に関するものを中心に、地学、生物、歴史、民俗文化など自然と先人の歩みに関する貴重な資料を、国内法規や国際協定等を遵守しつつ、体系的・計画的・継続的に収集する機能。	【鳥取県の自然や歴史・民俗に関する資料の収集】 (1) 鳥取県に関する地学、生物、歴史、民俗などの資料を体系的に収集し、県民の共有財産として継続的に充実させていく。	※赤字は現施設にはないもの 収蔵庫 自然収蔵庫 地学、動物、昆虫、植物 人文収蔵庫 歴史、近現代、民俗、考古	374 206 1,495	374 206 1,495
	②	収集した資料に関する情報を適切に記録・管理し、内外における調査研究等に随時活用・提供できる機能。	【収集資料の保管と活用】 (2) 収集した資料を適切、安全な環境の下で保存・管理し、国内外の研究者等の利用を促進するとともに、一部の収蔵庫にはガラス窓を設置し、資料の保管の様子を来館者がいつでも観覧できるようにする。 ※収蔵庫の常時観覧は、庫内の資料に悪影響が出ない方法で行う。	民俗や動物など一部の収蔵庫はガラス窓による観覧を可能にする。 資料の種類や同じ温湿度管理が必要な資料ごとの収蔵。 収蔵庫の一部は、恒温恒湿の24時間空調を整備	※1	※1 資料保管庫を除く
	③	収集した資料を次世代に継承するために温湿度や照明が最適に保たれ、災害等に対しても安全な環境の下で適切に保存・管理し、観覧や閲覧、利活用が行える機能。	【鳥取県に関する分分野別展示】 (2) 鳥取県の地学、生物、歴史、民俗の各分野について、学芸員の調査研究やその他の最新の研究成果などを踏まえた専門的な知見をわかりやすく展示する。 ・期間ごとに展示替えるコーナーを設け、新収蔵コレクションや最新の話題を速報展示し、学芸員以外の研究者や愛好家等も参画・協働できるようにする。	【必要面積】 (自然)現状261.2+不足分828.4+将来分40.9=1130.5 (人文)現状735.8+不足分569.3+将来分113.9=1419.0	※2 ※3	現在の第3特別展示室を使用(※一部2層化により収蔵力アップ→500㎡相当) 現在の講堂を使用(※一部2層化により収蔵力アップ→350㎡相当) 現在の収蔵庫を使用(※一部2層化により収蔵力アップ→1,700㎡相当) 地階 895㎡ - 資料保管庫、史料書庫、倉庫など 1F 110㎡ - 階段下倉庫 3F 490㎡ - 資料保管庫、美術収蔵庫
2 展示	①	鳥取県の豊かな自然と変化に富んだ先人の歩みについて、常時、専門分野ごとに詳しく伝えるとともに、まとまりのある地域ごとに過去からの流れを物語的に紹介する機能。	【常設展示】……「資料」が語る展示 【鳥取県を知るための融合展示】 ・自然・歴史・民俗「資料」にまつわる様々な話を資料自身が伝えられる展示室を新設し、本県の自然的・歴史的な個性を総合的に把握・理解してもらえようとする。 ・県民とともに作り上げることを心がけ、展示室内から議論が生まれる「学びの空間」となり、ここから鳥取県の新しい価値観が創り出されるようにする。	展示器材保管庫	2,550	2,550
	②	自然と人間の歩みについて、随時、国内外の貴重な資料を用いて世界や日本の多様な状況を伝えるとともに、鳥取県に関する最新の研究成果等を紹介する機能。	【鳥取県に関する分分野別展示】 (2) 鳥取県の地学、生物、歴史、民俗の各分野について、学芸員の調査研究やその他の最新の研究成果などを踏まえた専門的な知見をわかりやすく展示する。 ・期間ごとに展示替えるコーナーを設け、新収蔵コレクションや最新の話題を速報展示し、学芸員以外の研究者や愛好家等も参画・協働できるようにする。	燻蒸室	30	30
	③	自然や歴史・民俗の研究者や愛好家等も博物館の展示に参画・協働することができる機能。	【企画展示】……各展示会の2ヶ月程度にわたる長期開催(県民の観覧機会の確保) ※学芸員を増員し、展示会の回数を増やすことも検討する。 【国内外の貴重な資料を観覧できる展示会(年1回程度)】 (3) 自然と人間の歩みについて世界や日本の多様な状況を学ぶことのできる機会を県民に提供する。	常設展示室 企画展示室	2,580	2,075
	④	年齢や言語、障がい等にかかわらず来場者に親しんでもらえるような展示が行える機能。	【鳥取県の自然や歴史・民俗に関する展示会(年1回程度)】 (4) 鳥取県に関する最新の知見や新たな発見を紹介し、本県のアイデンティティ強化に資する。	展示計	2,000	2,060
3 調査研究	①	収集した資料についての調査研究や、博物館の運営・活動に関する調査研究を集中的に行える機能と、調査研究に必要な資料や図書を迅速に参照等できる機能。	……「収蔵資料」に基づく開かれた調査研究活動 【収集資料の整理と研究】 (1) 収集した資料を活用できるよう、整理と登録を優先的に行っていく。 ・整理された資料を、県外の機関とも連携しながら、精力的に調査研究し、鳥取県の「過去」と「現在」を明らかにしていく。	人文研究室A、執務室、修復室、研究用図書室 人文研究室B、作業室 自然研究室、執務室、研究用図書室	660	437
	②	県博の収蔵資料を内外の研究者等が容易に調査・利活用できる機能。	【目録・データベースの提供と『研究報告』の発行】 (2) 登録資料を目録・データベースで提供、調査研究成果を『研究報告』として発行し、成果の県民等への還元とともに、国内外の研究者等の参画・協力を得やすくする。	資料写真撮影室 資料点検室	100 100	437
	③	調査研究の成果を反映した展示を行い、あるいはその成果を取りまとめた紀要を発行して、成果を県民等に還元する機能。	……100人以上が収容できる多目的大スペース(講座、講演、昼食会場などを核に) 【講座・講演会・観察会・ワークショップ等の充実】 ・様々な使用形態に対応可能な多目的大スペースを新たに整備して、学校など大人数の団体や幅広い来館者を対象に、多様な学習ニーズに応える機会を提供。 (1) 年齢や言語、障がい等にかかわらず、様々な人々が参加できる学習・体験プログラムを提供する。 ・学芸員の仕事(資料の整理や調査、展示の準備など)を紹介するプログラム等も実施し、博物館活動への理解や関心を深め、積極的な参画を促す契機とする。	情報室(図書・映像) 多目的スペース 体験実習室 ボランティア室	660 300 300 20	437 260 260 22
	④	県下各地に残る豊かな自然や歴史遺産、民俗行事等を、大学や民間の研究者など館外主体の参画・協力を得て調査研究する機能。	【アウトリーチ活動】 (2) 博物館から離れた地域を重点に、公民館や学校等への学芸員派遣、テーマを定めた貸出し資料キットの作成、出張展示等を行い、全ての県民に学習の機会を提供。 ・その際には、県内の他の博物館(類似施設)と連携しつつ、役割を分担し、各地域における学習機会の格差是正と学習内容の個性化を図る。 【学校教育活動の支援】 (3) 学校教育における博物館利用を促進するため、社会見学等でクラスを挙げて来館した際には、多目的大スペースを活用し、来館者サービスの充実、活動内容を拡充。 ・小学校と連携し、発達段階に即した博物館利用法を考えていき、県内のすべての小学生が有効に利用できるようにする。	資料写真撮影室 資料点検室	860	437
4 教育普及	①	学習ニーズや学習内容に応じて最も適切な手法、設備等を駆使し、自然や人間の歩みを効果的に学習・体験する機会を、県民に等しく提供できる機能。	……県民の生涯学習の場 【ボランティアや任意団体等による博物館活動の活性化】 (1) 資料の整理や登録、自然標本の同定、古文書の解読などをボランティア等に支えてもらって着実に推進する。同時に、ボランティアたる県民に生涯学習の機会を提供し、博物館事業と県民活動との融合を図る。	【管理・共有スペース等】 共用空間(エントランス、廊下、トイレ、休憩コーナー等) ショップ等 館長室、事務室 応接室、会議室 スタツフルーム 電気・機械室 荷解場	130 300 300 20	111 260 260 22
	②	学校教育における地域学習を、館内外で効果的に支援できる機能。	【研究機関等との連携事業の推進】 (2) 大学等の研究機関や民間の研究者や愛好家などと協力・連携して、多種多様なシンポジウム、研究発表会等を開催し、多岐にわたる研究活動を展開する。	教育普及計	750	393
	③	年齢や言語、障がい等にかかわらず、様々な人々が参加できる学習・体験プログラムを提供する機能。	【県民の活動成果の発表機会の提供】 (3) 企画展示室を県民の様々な活動成果等を展示・発表する場として積極的に提供する(貸し館)。展示・発表の内容については、自然・歴史関係に限定せず、産業や芸術など県民の幅広い活動の成果発表等に活用できるようにする。	管理・共有スペース計	5,534	4,734
	④	学芸員等を学校や公民館等に派遣し、各地域の児童・生徒や一般住民を対象として、上記のようなプログラムを実施する機能。	【県内他館との連携】 (4) 県内に市町村や民間団体が設置している博物館(類似施設)に対し、収蔵資料の整理・保管や展示方法の改善について助言・指導を行ったり、共同で巡回展示や連携講座を実施したりして、それらの施設との連携・交流を強化する。	合計	11,724	9,699
	⑤	博物館から離れた地域に対しては、上記のほか資料貸出しや出張展示等により博物館資料に触れる機会を提供する機能。				
5 の協働・連携	①	自然や先人の歩みを自発的に学ぶ県民に対して、学芸員等が専門的な指導・助言を行う機能と、必要に応じて博物館の資料や図書の検索、閲覧等のサービスを提供することができる機能。				
	②	自然や人間の歩みに関し、他の博物館や資料館、大学等の研究機関、民間の研究者や愛好家などと協力・連携して、イベントの開催その他様々な連携事業を推進する機能。				

改修後の鳥取県立博物館（想定）

1階







地下

